

「横浜市子ども・若者実態調査／市民生活実態調査」の結果がまとまりました！

☆子ども・若者を対象にした調査にあわせて、横浜市として初めて40歳以上の方を対象にしたひきこもりに関する調査を行いました。

本市の子ども・若者の実態や困難を抱える若者のニーズ等を把握するため、平成24年度以来2回目となる「横浜市子ども・若者実態調査」を実施しました。また、近年、ひきこもりの長期化や高齢化に対する社会的関心が高まっていることを踏まえ、40～64歳の市民を対象に「横浜市子ども・若者実態調査」と同内容の「市民生活実態調査」を実施しました。今後の施策を検討する際の基礎資料として活用します。

1 アンケート調査結果の主なポイント

(1) ひきこもり状態にある方の推計人数

ひきこもり状態にある15～39歳の方の推計人数は「約15,000人」

(前回調査：約8,000人)

40～64歳の方の推計人数は「約12,000人」

(本市初調査)

定義：ほとんど家から出ない状態が、6か月以上継続し、かつ、疾病、介護、育児等をその理由としない者

15～39歳：14人〔男性：10人、女性：4人〕(有効回答数に占める割合1.39%) が該当

40～64歳：12人〔男性：6人、女性：6人〕(有効回答数に占める割合0.90%) が該当

29年1月1日時点の横浜市の年齢別人口において、

15～39歳は1,046千人、40～64歳は1,311千人

市内のひきこもり群の推計数は 15～39歳：1,046千人×1.39%＝約15,000人

40～64歳：1,311千人×0.90%＝約12,000人

(2) 前回調査(24年度子ども・若者実態調査)からの主な変化(15～39歳)

① **ふだん自宅でよくしていることについて、新たに選択肢に「スマートフォン」を追加したところ、前回調査で最も多かった「テレビを見る」を上回った。「テレビを見る」、「本や新聞を読む」は減少。**

スマートフォン：(新設)79.1%、テレビを見る：75.2%→69.4%、

本を読む：33.0%→24.4%、新聞を読む：12.9%→5.3%

② **小・中学校時代に学校で経験したことについて、「親友がいた」は減少。「友達にいじめられた」、「我慢することが多かった」は増加。**

親友がいた：75.1%→67.3%、友達にいじめられた：25.7%→30.4%

我慢することが多かった：21.8%→27.3%

③ **小・中学校時代に家庭で経験したことについて、「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」は増加。一方で、「我慢をすることが多かった」も増加。「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」は減少。**

小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた：56.1%→60.6%

我慢をすることが多かった：14.1%→17.4%

困ったときは、親は親身に助言をしてくれた：50.1%→44.9%

(裏面あり)

2 調査概要

目的：基礎数値の把握（ひきこもり数、各種リスクを抱える者の数）

市民の現在の生活状況、ふだん考えていること、抱えている悩み・課題等や実態の傾向分析

調査対象：横浜市内に居住する満15歳以上39歳以下及び40歳以上64歳以下の男女個人

標本数：15～39歳：3,000標本／40～64歳：3,000標本（住民基本台帳から無作為抽出）

調査方法：郵送配付・訪問回収調査（調査票を郵送後、調査員が回収。希望者等は郵送回答）

調査時期：平成29年7月28日～11月30日

有効回答数：15～39歳：1,004人（33.5%）／40～64歳：1,327人（44.2%）

※主な項目の結果概要は、別添の資料をご覧ください。また、全項目の調査結果は、ホームページ（www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/ikusei/kyougikai/）で公表します。

お問い合わせ先

（子ども・若者実態調査（15～39歳））

こども青少年局青少年育成課長 村上 謙介 Tel 045-671-2297

（市民生活実態調査（40～64歳））

健康福祉局企画課長 平木 浩司 Tel 045-671-2363